

「もとはこちら」のお話し

№45 今月のテーマ 相性と結婚

2010年(平成22年)9月18日(土)



田辺ヒデキ作 個性たっぷりのネコ達

短所・欠点のある人には

必ず長所・美点がある

(平井謙次著「自己を生かす道」より)

「地震・雷・火事・オヤジ」が怖がられたのは、昔の事。いま子供達に「一番怖いものは何か」と訊くと、「お化け」という答えが返ってくるそうです。

因(ちな)みにその次に怖いものは、お母さんという事で、地震も雷も火事も、ましてやオヤジの怖さなどは、今は昔の感があります。

しかし実はこの幼い子供達にとって、お化けよりも何よりも、口には出せない程に怖いものがあるのです。

それは自分を生み育て、温かく見守ってくれる自分にとっては何よりも一番大切な親が、ある日突然目の前から居なくなる事です。

この事は、例えばスーパードールなどで親と離れた幼い子が、泣き叫びながら必死で親を探している、そういう姿などを見る事からも、分かります。そしてその次に子供達にとって怖い事は、仲の悪い両親がいつも激しく相手を非難し、喧嘩をしている姿を見せられる事ではないかと思えます。

仲の悪い夫婦

貧乏も病気も、確かに辛い事には違いありませんが、それ以上に辛い事は、自分の両親が日常的に憎み合い、いがみ合った生活をしているという事です。

暴言・暴力で相手を受けながら育つ事になります。そしてまた大人の代表である親の生き様を通して、大人の世界全体に対する深い失望感を植え付けられた子供は、将来に対する明るい希望や喜びも持ちにくくなり、同時に「自分自身の存在そのもの」に対する肯定感をも持てなくなってしまう事が非常に多いのです。これは子供にとっては非常に悲しむべきことです。しかしそういう中であってなお、自分を見失わず自分を信じて、明るい将来に向かって道を切り拓こうとするような子供は、大変に強い立派な子供であって、いわゆる上根(じょうこん)の魂の持ち主です。ですから親としては、自分達は喧嘩ばかりをしながらも、こういう立派な子供を与えられたという事に対し、感謝をしながら十分に反省もしなければならぬ筈です。

仲の良い両親を親に持つ子供は、ただその事だけで、幸せだと思います。反対に、両親の喧嘩が絶えず、険悪な雰囲気の中で育った子供は、ただその事だけで、もう十分に不幸だと言えるのです。

北原ゆり筆

このように、仲の悪い両親の存在が及ぼす悪影響は、計り知れない程大きなのですが、これはただ子供に対してだけではなく、当然のことながら親である当事者同士にとっても、非常に不幸な話です。それで「自分達の為にも子供達の為にも、別れた方がましだ」という事になり、二十五万組ほどの夫婦が毎年の様に離婚をしているという事です。しかし離婚をすれば全てが丸く収まるかと言えば決してそんな事はなく、また子供を取り合って新たな裁判沙汰を起こすなど、親にとっても子供にとっても、どこまでも不幸が尾を引く事が多いのです。



ニオイと相性

夫婦仲がうまく行かなくなる原因は色々あると思いますが、二人の相性の悪さという事もあるようです。

相性といえば、両者の顔かたちや、持っている人生観や価値観、生まれ育った環境や趣味など、総合的なものが絡んでくると思いますが、実は、どうもそれだけではなさそうなのです。

体から発するニオイというのが、どれほど大きな力を持っているかという事については、動物の場合は昔からよく知られています。マーキングというニオイ付け行動によって、縄張りを主張するだけでなく、異性に対し、しっかりと自分の存在をアピールするわけです。あの楊貴妃なども、姿形の美しさだけでなく、良い香りのする女性として、昔から有名だったようです。

個体差によるニオイといえば、犯罪捜査における犬の活躍などでも明らかにされておりますが、私達には誰にでも、いわゆる人間の嗅覚では分らないほどの微弱な体臭というものがあります。そしてこの肉体が放つ生理的なニオイというのが、一般男女の相性の良い悪いを決める重要な役割を果たしているというのです。

ある時、一つの実験が行われました。

それはまず、男女を別々のグループに分け、その場で男の人に履いている靴を脱いでもらい、誰の靴か分からないようにして、その

ニオイを女性にかがせるというものでした。

そして女性に、好ましいものと、我慢ならないニオイの靴とに分けさせたのです。ニオイの好き嫌いは、人それぞれでしたが、この実験によって、とても興味深い事が分かったのです。

それは、女性は自分の体臭と異なるタイプのニオイに強く惹かれ、その体臭に対して、より好感を抱く傾向にあるという結果が出たという事です。

端的に言えば、自分の出すニオイと同じタイプのニオイに対しては、それを嫌って臭いと感じ、自分と異なるニオイに対しては、好ましい香りだと感じるという事です。

しかしなお興味深いのは、ここから先の話です。

この女性のニオイに対する好みは、一生そのまま続くのではなく、出産を終え、その子が何と一人で生きていける様になるまでの子育て期間である3〜4年を経た女性は、本人にとっては勿論無意識の事なのでしょうが、今度は次第にそのニオイを疎ましく感じる様になってくるというのです。

そういえば惚れた、はれたと大騒ぎの末に結婚した二人が、子供の誕生を境に、女性の関心が子供に移ってしまい、夫婦としての関係が冷たくなったというような話もよく耳にします。

そして「自分の選んだ相手が、こんなつまらない人、人間として許せないイヤな奴だとは思わなかった」等と言って、熱が冷めるばかりでなく、場合によっては離婚にまで到ることもあるのです。

子作りのための良い相手とは、実は・・・

勿論離婚に至る原因は色々あるわけです。しかし先の実験で分かった様に、一目ぼれというか本能的に好きになった人というのは、元々自分と異なるニオイを持つ人であり、言うならば自分と異質の相手であつたわけです。

ですからそんな二人が長く生活を共にしていれば、感覚的な事から始まり、色々な点で考え方や意見が合わず、衝突するのは当然



り前であり、言わば二人は初めからそういう宿命にあるわけです。そういえば男女が新鮮な目でお互いを見つめ合える、いわゆる恋愛感情が持続するのは、せいぜい3〜4年までで、後は惰性と忍耐だというような説がありますが、その期間がはからずも先の子育て期間の3〜4年という期間と合致しており、なるほどと肯けます。

さて、ではなぜ私達は本能的に、自分と違う要素を持つ人に憧れ、心惹かれるのかという事です。これは二つの面から考えられます。一つは、もともとあらゆる生物は、種族保存の本能として「より強く、より優れた子孫を残したい」という深い心を持っているからだと思われまふ。

ところで犬や猫などでも、純粋種よりも雑種の方が丈夫で、病気などに対しても抵抗力が強いと言われています。この雑種の方が純粋種よりも強いという事が、実は私達人間にもそのまま当てはまるのです。

ですから、出来るだけ色々な異なる要素を沢山持ち合わせた子供、即ち強くて丈夫な子供を作る為には、遺伝の問題などもあり、出来るだけ気質的・体質的に遠い因子の者同士が結婚した方が良いということになるのです。

そういう事を私達は本能的に知っており、特に女性は無意識のうちにも、自分と遠い素質や因子を持つ男性に心惹かれ、自分にふさわしい相手となる人を、文字通り鼻で嗅ぎ分けているという事なのです。

自分磨きの人生

しかし考えてみれば、私達は何も良い子孫をのこす為にだけ、結婚をするわけではありません。

結婚というものには二つの大きな側面があります。

一つは、男女という異質なものが交わって、そこから新しい命である子供を生み育てるという事です。

そしてもう一つは、やはり異質の者同士が生活を共にする事で、



夫々自分に無いものを補い合い助け合いながら、幸福に向かって一緒に歩んで行くという事で、言わば自分達を育てる為の行為です。ところが先に述べましたように、子作りという目的の為に、二人が異質であればある程、それは望ましい事なのですが、その事は同時に、二人が違えば違うほどに、ちょっとした事で大きな摩擦が起きる原因になるということです。

元々デコボコの多い未熟なものの同士が結婚し、一緒になるのですから、ぶつかり合うのは当然で、結婚生活には喜びだけでなく、痛みが伴うのは当たり前の事なのです。そしてこのぶつかり合いの中から、反省もし、相手の事を理解しつつ自分の事も分かってもらい、互いに寄り添う事を覚えながら、精神的に成長してゆくというのが、結婚生活の醍醐味であるのです。ところが殆どの人は、大体は自分の未熟さは棚に上げ、相手の未熟さばかりを挙げつらい非難をし、自分の思うように相手を変えようとするのです。

しかし実はこの「自分の思い通りにならない辛い環境の中に生きる」というこの事こそが、自分の生命力を強くする方法であり、私達人間が絶滅する事なく、ここまで進化発展する事ができた、その大きな要因の一つであるという事が言えるのです。

私達が異質のものに憧れる二つ目の原因は、正にここにあるのです。

例えば、薄い皮膚しか持たない人間が、暑さや寒さの厳しい所に住まなければ生きていけないという事は、どう考えてもとても辛い事です。また食料不足や恐ろしい肉食獣などがいるという状況に生きる事も、望まない厳しい環境であつたわけです。

しかしそうした厳しさの中で常に、どう生きるか、どうするかと考え続け、工夫し続けた事が、私達人間の肉体的精神的な適応能力の幅を拡げる結果となったのです。

そしてまた、様々な厳しい状況の中に置かれた事によって、私達は決して一人では生きていけないという事をも深く学びました。

空を飛ぶ事も、速く走る事もできず、そして肉体的にも小さく弱い存在の人間が、なんとか今日まで生き延びる事が出来たのも、一人ひとりの違いを長所として活用し、一丸となって皆で力を合わせ、

共に乗り越えてきたからこそ、可能であったのです。

ですからこういう「思い通りに行かない困難な事態、辛い状況や不本意な環境」こそが、自分自身を強くし逞しくし、幸せに導いてくれる大切な要因であるという事を、私達の内なる魂はちゃんと知っているからこそ、私達は自分と異なるモノを必要として、互いに求め合っているのです。補い合い、鍛え合い、磨き合って完全を目指す為であり、全ての事は、もっともって幸せになる為の、自然の計らいだったのです。

本日の幸せに向かう為

結論として言える事は、ただ安楽な結婚生活をと望む人は、できるだけ自分と同じ価値観や人生観を持つ人を、人生のパートナーとして選ぶ事です。

それは、自分と同じニオイを出す人であり、言うならば、自分が臭いと感じるニオイの持ち主です。この人と結婚すれば対立する事も少なく、生まれる子供も、ある意味では純粋種に近い子供です。ひ弱さが目立つかもしれませんが、夫婦喧嘩をした時に子供を見て、「喧嘩した夫に似ているから可愛くない」等という、理不尽な事を思う事も少ない筈です。しかしその結婚生活は、刺激も少なく穏やかである代わりに、人間として向上する霊的喜びも少ないものになるかもしれません。



これに対し、いわゆる本能的に好きになった相手というのは、ただ単に良い子孫を残す為に適した相手というだけではなく、自分を磨き向上浄化させてくれる最良の相手でもあるという事がいえるでしょう。しかし感覚的、感情的に好きになった相手であればある程、出産育児を終えた後は、忍耐や寛容、思いやり等の、人間的な心の修行がより一層必要とされるという事です。

しかし元々人生とは、望むと望まざるに関係なく、誰にとっても修行の場であるわけです。生きている限りは修行なのですから、結婚生活をも修行の場と覚悟を決め、自分と異なる波動の相手を受け

入れ、赦（ゆる）し、赦されながら、もしも自分の生き方・考え方の幅を拡げて行く事ができるならば、人間としてより一層磨かれて向上し、必ず素晴らしい方向に行ける事になるはずです。そのうえ、子供に対しても、異質の相手を受け入れ、助け合いながら生きている、そういう両親の素晴らしい姿を見せる結果となり、最高のプレゼントを子供に与える事も出来るのです。

折角のこの人生を、好きだから結婚し、嫌いになったから離婚するという様な、好き嫌いの感情を優先するのではなく、先ずは「自分と異なるモノを受け入れ、より向上し、幸せになろうとする自分の本性・本能」のその素晴らしい事に気付く事が大切です。

そして結婚に限らず全ての事において、苦手な事や嫌いな人に対し、対立し忌み嫌ってそれを避けて通るのではなく、全ての事を良しとして受け入れられるような「大きな器の自分」になる事が、私達には必要なのではないかと、改めて思います。

以上今回は、平井先生が繰り返し、繰り返し、何度もお話下さった「中和法と反撥法」というお話の、その応用編のお話です。

～勉強会のお知らせ～

9月の勉強会日程は、下記の通りです。

日時 9月18日(土)
午後 7時より9時迄

場所 和歌山市土入 平井診療所 2F

7月は平井先生の生誕76年のお祝い会が開かれ、8月は特別にお休みを頂きました。
9月より、通常通り開催致します。

皆様のご参加を、
心よりお待ちしております。



編集発行人 もとはこちら会 資料編集部 北原友也
専用HP <http://www.motoha-kochira.com>
mail: data3@motoha-kochira.com